

若きマルチアングラー杉山和由が解説する、春の底釣りベーシック理論。そして、谷和原大沼で行われた季節先取り取材では…!?

# 8 特集 春の底釣りベーシック

緊急特別インタビュー。業界を憂う重鎮中の重鎮、竿春親方が、製竿60周年を前に、その胸中を激白…!!

# 16 特集II あくなき挑戦。～阪部 博という匠～

# 200 国際フィッシングショー2006/フィッシングショーOSAKA2006

26 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道  
《第三十九回》淡路島、至高のへら。

34 《新連載》小池忠教 K'S FORM & STYLE  
《Vol.3》底釣りのフォーム 清遊湖

40 中澤 岳 フィールド真っ向勝負  
《Vol.4》小春日和の横利根川

47 杉山達也のSUPER SPLASH!  
《ROUND.4》椎の木湖:もうひとつのセット釣り。短竿チョーチン!!

53 《新連載》戸張 誠 関べら戦記  
《第2回》2月例会 放流直後の横利根川

### ★AREA REPORT

58,66	中の島センター&逆井HC	本誌・伊藤洋一
60,68	木場潟(石川県)	山本一朗
61,69	札野池(岐阜県)	後藤 誠
62,70	平尾池(奈良県)	前田誠志
63,71	南良津陥落池(福岡県)	河口正伸

64,114 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ  
《第三十八話》新春特別SP!! 「乗込みまで待てない。ダム王・松村則郎登場!! その極意を聞け!」 後編

134 竹とともに生きる。  
《第30回》「玲峰」 米田晋策

137 《新連載》棚網 久の我流  
《第三回》竿8尺チョーチン釣り!

143 田辺哲男&小林恭之の問答無用へらツアー  
《Vol.4》炎のリベンジ戦。柳生F.P新春賞金大会!

148 稲毛利夫 野釣り場地獄巡り  
《第4回》師匠、巨大魚を釣る!?(渡良瀬川、鹿ノ川沼)

152 《新連載》吉川ひとみのあっち こっち そっち♡  
《Vol.3》冬は釣り堀! ヒトピー底釣り修行!!  
ショップ:FJ上州屋川越店 釣り場:川越FC

156 北川穂積 西の交友録  
《第4回》ゲスト:西田美明 釣り場:小皿池(兵庫県)

193 岡田 清 Deep Side Angle  
《Vol.30》【孤高の短竿段底】 熊の池(神奈川県)

206 釣果予想クイズ

208 フィッシングレディ  
《今月のレディ》佐川夏江さん 友部湯崎湖

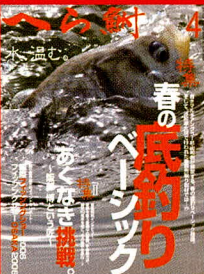
p.199

こだわりの店 黒べゑ  
お年玉プレゼント  
当選者発表!

p.165~

## 釣り場割引 クーポン券

野田幸手園 椎の木湖  
清遊湖 谷和原大沼 隼人大池  
上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場  
将監 柳生F.P 筑波白水湖  
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖  
水藻FC 甲南へらの池  
三和新池 狭山HC 新座LC  
川越FC 府中HC 当麻池  
多賀釣池 芦田湖水光園  
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池  
田島池 霧の沼 小川つり堀園  
清川つくしFC  
三名湖・舟宿 光月  
千代田湖・舟宿 千和



▶今月の表紙  
field: 谷和原大沼  
photo: 本誌・里  
layout: 本誌・里

# へら鮒 4月号 April.2006 No.484

75 へら鮒釣り 超基本講座【道具作り編】  
《第16回》羽根ウキの作り方 2枚合わせ編

81 ガチンコ道場  
《第4回》鬼軍曹登場!!

88 都祭義晃 カリスマ伝説  
《Vol.4》当日の最高釣果を狙え アート・へら・ポンド編

92 石川裕治が伝授する王者の法則  
《第4回》深宙を攻める 羽生吉沼

99 江成公隆のトーナメント、復活への道。  
《Vol.46》浅ダナセット…改め 底釣りゼミ2006

106 すずめつつ へら鮒調査隊! 天野正由  
《調査ファイル04》リニューアルなった宮沢湖を見てきてちょうだい。

110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土  
《今月の星空》「香港迪士尼樂園」

119 へら鮒ブログ 西田美明  
《第4回》「めざせグルメ!」

122 母なる湖…琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦  
《第12回》あっちバタバタこっちバタバタ!!

126 野田幸手園新聞

162 ワクワク管理釣り場情報

171 小売店情報

### ★へら鮒BOX

177 里ちゃんの新米編集長雑記  
178 情報発信基地  
180 平成17年度 相模湖大型表彰式  
182 ボイス  
187 コラム『日研だより』日研広報部長・遠藤克己  
188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト  
189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』中塚伸行  
190 プレゼント発表  
191 広告索引  
192 編集後記

## STAFF

- Producer 根本百合子
- Editor in chief 田中里史
- Editor 大場勝良 諸富一秋 伊藤小百合 伊藤洋一
- Planner <オフィス・えぶ> 藤原 肇



この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画！～いよいよ再発刊！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

## 「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.46〉

浅ダチセット!?!改め…

# 底釣りゼミ2006

in谷和原大沼

「浅ダチセットの練習をすべきと心に誓った」はずの江成だが、今月さっそく反故にした。まあ予想されたことではあるが…。

春の底釣りをテーマとした別取材への便乗とあっては、底釣り好きな江成にはたまらなかつたろう。

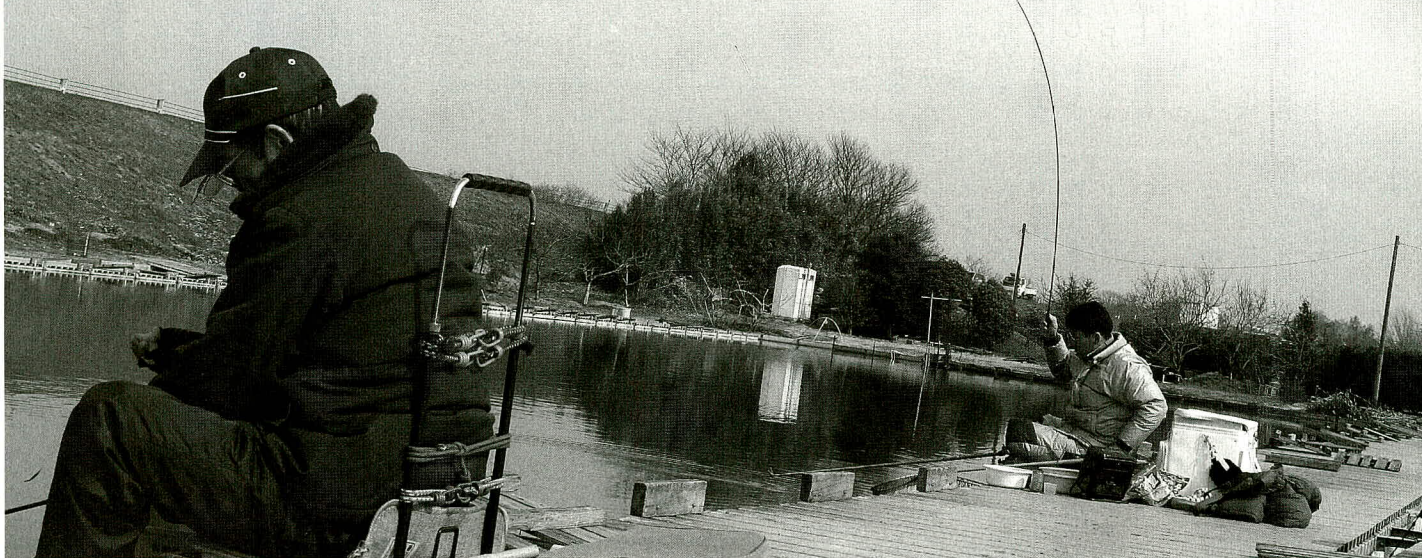
ま、里にしてみれば、きとんと原稿さえ書いてくれれば問題ない。

ドン深の釣り場が多い昨今、11尺いっばいの水深を浅いと見て「浅ダチ」などと強引にダジャレにもっていく必要はないのだが、ハナからやる気もないくせに、セットへの移行（底釣りでの）を匂わせ、「浅ダチセット」などという下ネタまがいのテーマを高らかに宣言。「底釣り」とは決して言わないアニキであった…。

結局一日をダンゴで通した江成。送られてきた原稿も底釣りの話題のみ。

もちろん当初のタイトルはボツで、「底釣りゼミ2006」は、里の命名。

…んなことより、原稿が短すぎるんじゃない？ 何やら色々忙しいらしいが…。 by 里ちん



30000ヤルベン\*

唐突ですが、他人様にも自分にも、人生って本当に色々あるなあとつくづく感じる今日この頃です。正夢とか、嫌な予感などよく言いますが、最近「第六感」は本当にあるのかな」と、感じさせられる出来事がありました。僕は、「予感ではなく、心配しすぎた（強く念じた）ために現実になってしまったのではないか」とも考えましたが、嫌な予感を現実にしたところで、自分の潜在能力を信じる気にはなれません。その後、想像もしていなかった事態に進展し、やはり人間の思惑を遥かに超えたところで全てが決まっているんじゃないかとも思わせられ、「自分で望んだ災難」という悲しい結論からは脱することが出来ませんでした。そうは言っても、人間はストーリーが欲しい生き物ですし、「運命」任せでもつまらないと感じます。

今回の災難をどう捉えるか。罰が当たったのか。良い教訓にするために誰かが与えてくれたチャンスなのか。頭はグルグル回るばかりです。

\*里ちん註：色温度を指し示す言葉。数値が大きいか小さいか。つまりアニキはめっちゃブルーな精神状態です。江成ワールドを象徴する小見出し。ちなみに、いったいなにかあったかというところ…。「プライベートなことなので事務所を通して」といって…。



## 浅ダナ同タナ。

今回の取材は2月14日に行われた。杉ちゃんこと杉山和由氏とのダブル取材(便乗)である。バレンタインデーの谷和原大沼に野郎3人が集合♡ 里ちゃんはダブルなので、さすがに竿は出さないらしい。久しぶりの谷和原大沼を、隣にいじめられることもなく満喫出来るそう。

今回の僕のテーマはもちろん浅いタナのセットであったが、  
「杉ちゃんは底釣りだし、自由池よりメーター規定の池での浅タナセットの練習がしたかったし…」

と、仕方なく？底釣りを選択。今年初めての底釣りに挑戦することとなった(つて、釣る自体がまだ、今年2回目なんだけれども)。岡田君との厚木HCでの底釣りは不完全燃焼(出来過ぎこの声も)！ 気味だったし、古川君との横利根での底釣りは厳しかったし…と、ウキウキしながら仕掛けを作った。が、当然ながら里ちゃんの視線が気になる。僕が底釣りをやっているのと知った瞬間の里ちゃんは、マジで怒っていたんじゃないかと思う。濃厚な編集長の顔色が一瞬変わったのを僕は見逃さなかった。でもシカト♡



「アニキ、両ダンゴですか？」  
「うん、とりあえず共エサで入ってセットに移行する予定」  
「浅いタナにしてはすいぶんウキが近いですね。気のせいでしょうか？」  
「そう？ 予定通り、浅いタナのセットにするつもりなんだけどね」  
「…タ…チ？」

## 可成りおもしろい。

積極的に仕掛けることもなく、ほとんど振り込んだままの状態でのんびりアタリを待つ北城スタイルを見て、驚く人は結構いるようだ。振り込みも振り切ったり、中途半端な落とし込みであったりと、「テララメグリ」に見ている釣れる気がしないという人も多い。みんながみんな、僕の底釣りゼミを読んでいく訳はない。というより、読んでいない人が方が圧倒的に多い訳で、何をやっているのかと聞かれれば、「僕なんかで良かったら…」と答えるようにしている。が、長くなり過ぎ、現場で全部は無理。

へら釣りの面白さがその難しさにあるのは、皆さん承知の通りである以上、何もなしで釣れる訳はない。表面上、何もしてないように見えるのであれば、その代わりにセッティングやエサで全てを準備していることになるわけだ。今回の取材では徐々にエサの幅が狭いと感じたが、宙釣りに比べればエサの幅は広い。つまり、底釣りはセッティングを突き詰めれば、オートマティックにしやすいやさしい釣りだと言えるのだ。何度も書いてきたが、僕の子供の頃、初心者にとって底釣りは入りやすい釣りだという認識が一般的だった。もしかすると今でもそうなのかもしれない。ただ、根本的な理解がなくても順調に増えていく知識が、底釣りを難しい釣りに変えてしまうのにその時間はかからないはずだ。勘違いなままであっても、砂上に樓閣を築けるならそれはそれでいいのだが、多くの人は築き終える前に、瓦解してしまうだろう。僕が底釣りを一生懸命練習していた頃に比べて現在は、間違っただけとは言わないが、中途半端な情報が多過ぎる気がする。

## ニュアンス。

どれだけ掘り下げて書いていたとしても、どうしてもギリギリで伝わらない部分というものはある。

底釣りゼミ2005で、「読みにくいと思われても、しつこくくらい細部まで書きたい。取捨選択の自由は、全て理解していただいてから」というようなことを書いた。マニュアルである以上、「ニュアンスを汲んでもらう」では困るのだ、とも。今でもそうは思っているのだが、やっぱり現実には厳しい。

「例えば」というより究極のクエスチョンとして、「テンションをコントロールするため適正なウキのサイズは、実際どれくらいなのか？」というような事が書きづらい。水深、風、流れ、仕掛けの太さ、魚の量や活性など、様々な要素が絡み合うからだ。しかし、「この部分は経験で掴んで下さい」と、放り投げられるのが、熱心な読者には一番つらいことなのだ。一番最初の底釣りゼミオリジナル(2003)では、「いつもの感じ」という、読者任せのとても曖昧な表現ながら、とりあえずひとつ「自分なりの基準」を元にして読んでいただくという試みをした。成果のほどはイマイチわからなかったが、もう少し突っ込んででもいいのかな？と感じた僕は、亀山湖編での囲み記事で、里ちゃんに「大きなスラシと沖打ちを伴った底釣り」においてのテンションの掛け方についてはコメントしてもらっている。「穂先の沈め方で変わってしまうのだ」と。そして「ウキのジョイントと穂先は水平」とまで書いてもらった。今回はさらに突っ込んで、前述の「究極のクエスチョン」にまで迫ってみたい。

えずに、竿尻をゆっくり少し手前に引く。ウキがどっしりと下がり(沈み)、戻すとその分だけストレスなく戻る状態が、適正サイズ「以上」のオモリ負荷のウキを選択している目安だ。もちろん沖打ちして仕掛けを斜めに張っている前提での話。ここでウキが小さ過ぎると、どっしりと下がらない。テンションの抜き差しに対して、仕掛け側のレスポンスが悪過ぎるのだ。これではコントロール出来ない。大き過ぎる目安は、テンションの抜き差しでは判断を付けにくい。が、「楽にコントロール出来る」という感覚はある。ただ、何と比べて楽なのか？という部分をハッキリ書けない以上、結局曖昧な表現に終わってしまうのは否めないが、かまわず続けてみる。

楽、すなわち「ある基準、つまり自分で体得した(すべき、したい)ベストな状態」より必要以上に戻りやすい(戻りが良過ぎる)と感じられる場合、大き過ぎを疑ってみる価値はあるのだ。「必要以上」というまたまたアウトな表現が出てきた。「必要十分」なウキの動きは書けなくとも、大き過ぎるウキを用いた場合の、水中で起こる弊害は説明することが出来る。大きなオモリはウキの真下方向へ行こうとする力が強い。エサと底との摩擦と、オモリが戻ろうとする力の差が大きければ、オモリはどんどんウキの真下へ帰ってくる。道糸が垂直に近くなれば、スラシに使った余分な道糸分のナジミ(シモリ)が解消される。問題はこのときのハリスのテンション。おそらく突っ張ったままだ。「いいところまで戻って来ているのに、どうにもカラツンが多い」とか、「落としてもいいタイミングなのに落とさない」時が、必要以上に戻っている可能性のある時だ。つまりベストセッティングであれば、まだ全然戻り切っていない位置なのだから、カラが多くても不思議ではない。「アタラ(れ)ない」としてもおかしくないの



だ。ここで、もっとスラシをくれてやったら、ハリスのたわみが大きくなって、自然度も上がると考える人はいるだろう。確かにその通りである。へらから見れば、一段食べやすい状態になることは間違いない。しかし、一段と戻りが良くなってしまふことも見落としてはならない。かなり早い段階から戻り切ってしまう設定になってしまえば、ハリスのテンションが徐々に取れていく様を確認出来ないことになってしまうのだ。「スラし過ぎればスレばかり」と、ただ単に昔から良く言われる状態に陥ってしまうだけだ（もちろん活性が高く、アタリも早い時はかまわない。どんなに早い段階でウキが戻っていようと、最初はハリスの張りが確保されているためアタリは伝わるし、それどころか張り過ぎ・エサの持ち過ぎといった問題も関係ないだろうからだ）。これではせっかく実践してみようとしたとしても、大きなスラシの効果を感じられないまま、北城理論そのものを否定してしまうのが目に見える。僕の底釣り記事を全て読んでいたとしても、独習で体得するには大きな壁があるのは残念ながら事実だ。が、今回の記事が「自分なりの基準」探しにいくらかお役に立てることが出来れば幸いである。



背中から溢れ出す往年の自信。今にもアワセそうであり、なおかつアワせれば必ず乗ると見る者に思わせてしまう不思議。視線を背中から移せば、フリーズしているが如くほとんど動かない上半身に気づく。そしてそれはもちろん竿を握る右手さえも。「その釣り自体には全く釣れるイメージが湧かないのに、江成さんの今にも釣りそうな自信が怖い。そして実際に釣っている。見ていて、とても気持ちが悪い」あるギャラリーの方の弁。いまだ誤解している方も多い北城理論を実践する江成にとって、最高の褒め言葉ではある



特集での杉山氏とは対照的に、「平場」で「居るへら」を狙った江成は、しっかりめの小エサ両ダングで釣り切った。カケアガリよりもジャミのイタズラが少なかったこともあって、上下のエサに役割分担させる必要はなかった（特集参照）



## 実感・大き過ぎるウキ。

ちなみに今回の取材では、当初大きめのウキで釣っていたが、どうにもカラツンを解消出来なかった。スレも自信喪失寸前の多さ。ボケながら、僕は思った。

「へらは十分にいる。アタリも出ている。ほぼ正解に近いところまで来ていると感じられるウキの動きだ。もうちょつと釣れてもいいのになあ……」

11時頃、まわりを見回す。誰も絞っていない。杉チャンはジャミに弄ばれて悶絶している。

「オレの所はへらはいるけど食い気がないってことなのかな。5枚でもトップなら、満足しなくちゃいけないのかなあ……」

ここでふと、ウキの大きさが気になった。実は朝イチで、勝手に13尺一杯の底釣りをイメージした僕は、それなりのウキを合わせた仕掛けを作っていたのだ。マブナ釣りのように棧橋を歩きまわって探ったが、結局13尺で一杯になる釣り座はなく、仕掛けを詰めて11尺に変更。神経質でマメそう？ながらギリギリでスポラな僕は、ウキはそのままに釣りを開始していた。

「道糸とハリスのテンションの差があり過ぎて、アタリが出切っていないのかも。カラは吐き出しやスレアタリなどの大きな動きしか出ていないんじゃないだろうか」

僕がウキを換えた理由はこうだった。さっそく、オモリ負荷のふたまわりほど小さいウキへ交換。すると明らかにペースが上がったのだ。釣りながら僕は考えていた。水中ではどういふ変化が起ったのだろうか、と。

「当初の目論見とおり、テンションの差が小さ

くなったせいでだろうか？ 追わせるという要素はどうだろうか？ 完全底釣りにおいても有効な要素であることは、過去のゼミに書いてきた。だがやはり今回は全く関係なく、テンションコントロールのみ作用したセッティング変更のはずだ。だって交換以前でも反応は十分にあったんだし……。では、テンションの差が小さくなるとうなるんだっけ？ 動きの伝達がスムーズになる。くの字が小さくなるからだ。ということは……」

底釣りゼミ2005では、大きなウキで行う底釣りを、特別問題ないと結論付けた。今回の記事と矛盾すると感じる方もいると思うので補足すると、2005では「あまりズラす必要のない高活性時」を「使い時」としていることに注目して欲しい。「では、大きくズラした時に、大き過ぎるウキではどういふことになるのか」ということを書き添えなかったのは、「テンションの連続性」という新しい言葉で「仕掛け全体のテンション」を見直した2005としては、いま思えば片手落ちだったと感じる。ただ正直に言えば、前項で得意げに書いている「大き過ぎるウキの弊害」は、当時の僕の頭の中では言葉になっていなかった。もちろんこれまでの底釣りゼミから導き出すことが出来る、特別新しいことではないのだが、実感としては今回の取材が初めてだった。北城理論を学んで以降、僕もたいして検証出来てはいないのだ（何せ月イチなもんで）。

……と、まあこのように、明らかにペースが上向いた時のウキの動きを基準、もしくは基準に近いであろう状態と捉えていくしかないと思う。そして何度かそういう状況に遭遇していくうちに、本当に完全な基準となるはずである。全て理詰めで説明出来ないのは悔しいが、要経験な部分も当然あるということでお許し願いたい。

## 再考・長ハリス。

大きなウキについて再考したついでに、完全底釣りにおいての長いハリスについても、もう一度考えてみた。

水深の目印（トンボ）を無視してさらに深くしていくような大きなズラシをする場合、ハリスが短いとオモリが底に近すぎるか接地してしまふ（オモリベタ）が、長いハリスなら問題ない。極端な例としては、30cmのハリスは30cmズラせないが、60cmのハリスは30cmズラすことが出来る。

実際は30cmのハリスで30cmズラしても、完璧な落とし込みをしない限り接地はしないだろう。ただ底に限り無く近いことは間違いない。底にオモリが近いということは、くの字の折れも大きいわけで、アタリの伝達に不安が残る。動きがオモリの横移動（振り子）に吸収されてしまうのではないか（クッション）という危惧だ。

ここで、以前に書いたハリスの長さでズラシの量の関係について思い出しておきたい。次ページの図は、2005年3月号の僕の記事に掲載したものが、この図を見ながら読み進めてみて欲しい。

便宜上、道糸は垂直でハリスのみ角度が付いているとすると、同じ角度（幅）にするためには、ハリスの長さでズラシの量は比例していなければならないのだ。例えば30cmのハリスで15cmズラした角度は、倍の60cmのハリスではやはり倍の30cmズラして初めて同じ角度となる。30cmのハリスでオモリが底に着くスレスレまでズラすのと同じ角度にするには、60cmのハリスでも90cmのハリスでも同じくらいオモリが底スレスレになっていなければならないのだ（例：30cmのハリスを29cmズ

ラシ60を58・90を87……と、厳密に言えば、少しずつ底からオモリまでの距離は増えている。く）。

ここまでは、長いハリスでズラシを入れていく時の盲点として2005で紹介した部分。今回は、全く逆から考えてみる。実際はテンションの差があるので、ウキからハリまで一直線ではないが、今回は「便宜上」「仕掛け全体が一直線」と仮定すると、30cmのハリスでも60cmのハリスでも、トントンの状態でのウキからハリ先までの距離は変わらない（沖も同じ水深）。ならば、「仕掛け全体」の角度をコントロールする際に、ハリスの長さは関係ないことになってしまう。

以上2点から総合的に考えると、「ハリスが倍になればズラシを倍にしないと同じ角度にはならない」というのは若干緩和されるため、「短いハリスより長いハリスの方が、いくらかは大きくズラせる（角度を大きく出来る）」のは間違いないさぞうだ。しかし、オモリによって限りなく垂直に近いのは道糸の方であるし、その結果必ずくの字に折れるのだから、「仕掛け全体」という視点は重要であるとはいえず、やはりここではハリスをメインで考えておかなければならない。「では」と、もう一度「ハリス」に注目すると、2005に書いたように、同一銘柄、号数であれば、長い方が「たわみが大きい」ため、ここでもやや少ないズラシ量で大きな角度を付ける効果が期待出来ることになった（イメージ的には30cmのハリスでの15cmズラシが、60での20や25くらいで収まるという感じが）。

ズラシを少しでも減らしつつ、同じ角度が実現出来るメリットは何だろう。くの字が小さくなって、アタリの伝達にはプラスになるだろう。また、ズラシが減ることとは、オモリの位置が上がる（底から離れる）ことに直結する。半径を伸ばして円周（半周）を



# 釣番付

## 料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

## 書体見本

- 1.ぐりへの釣会
- 2.ぐりへの釣会
- 3.ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

## ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

## 取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮒仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

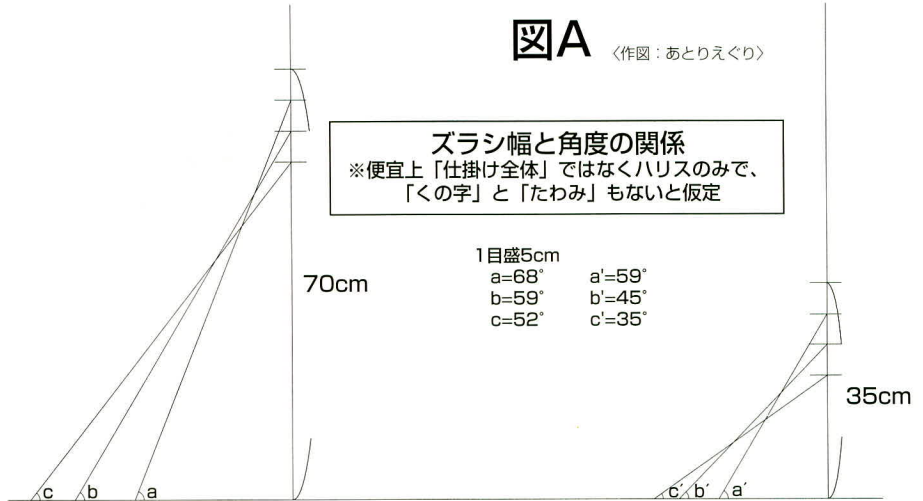
お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

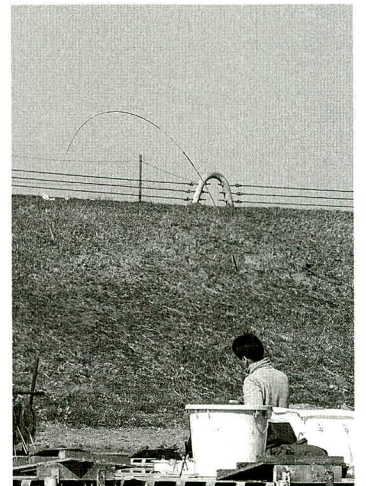
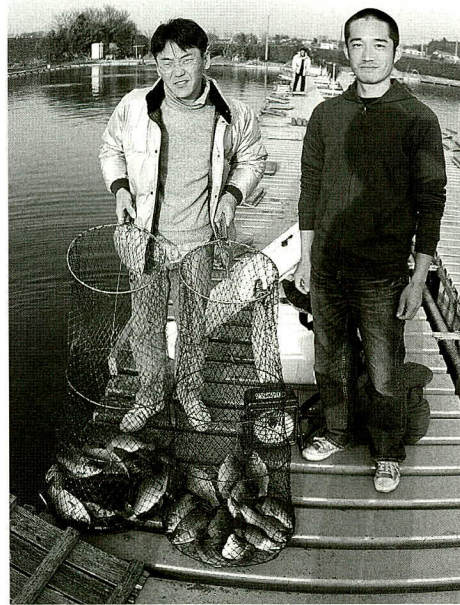
http://www.office27.com  
E-mail:info@office27.com

## 図A 〈作図：あとりえぐり〉

ズラシ幅と角度の関係  
※便宜上「仕掛け全体」ではなくハリスのみで、  
「くの字」と「たわみ」もないと仮定



2月とは思えない、穏やかな午後。気温もグングンと上がり、いわゆる「陽気ボケ」状態に突入。へらは居るのだが、食いが乏しいせいか、アタってもスレやカラツンが目立つ。ほとんどの釣りがお手上げの中、ダウンを脱ぎ捨てた江成はコンスタントにカウントを重ねてゆく…。構図的には余りエサの桶が邪魔なのだが、「江成らしくていいかな～」と。でもアニキ、底釣りの練習はもういいんですってば…



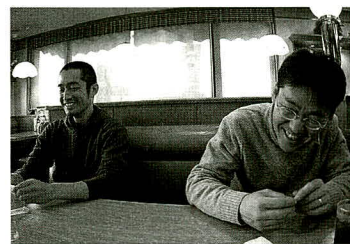
32枚、19.8kg。主役キラーで文句なし？の竿頭。もうちょっと嬉しそうな顔したら？ちなみに杉山和由氏と江成だが、これまた付き合いが古いらしく、片付けながら熱心にミニ反省会を行っていました。そしてその後は恒例のファミレス直行能書き大会。今回の犠牲者は、大人しい杉ちゃんでした…

拡大させ、より自然な落下と滞空時間によって「追わせる」という、長いハリスのメリットの出発点に立ち返って見た場合、オモリ（支点）が上れば上がるほど、その効果を活かし切れることになるのだ。

…と、原稿はここで唐突に終わっている。どうやら力尽きたらしい…。

江成節全開のひじょくに読みにくい文体ではあるが、底釣りという釣りは、それほど「深い」のである…。根性出して読んでみてください。

ところで、今回はどーすんのよ？ by 里ちゃん



里「ほらアニキ、一番釣ったんだからタップリと能書きをどうぞ？（笑）」  
杉「そうですよ。じっくり聞かせて下さい！」  
江「勘弁して！」



# へら鮎 4

Monthly fishing magazine herabuna

## 水温む。

### 特集

## 春の

# 底釣り

若きマルモアングラー杉山和由が解説する、春の底釣りベーシック理論。そして、谷和原大沼で行われた季節先取り取材では…!?

## あくなき挑戦。

〜阪部博とくろく匠〜

### 特集II

緊急特別インタビュー。業界を憂う重鎮中の重鎮、竿春親方が、製竿60周年を前に、その胸中を激白…!!

釣り業界最大のイベントをレポート…!  
国際フィッシングダムショー2006  
フィッシンググランドショーOSAKA2006



# 水辺が、動き始める。 こころが、踊り出す。

3月。いよいよ、乗っ込みシーズン目前です。  
乗っ込みといえば、なくてはならないのがグルテンエサ。  
マルキューの3つのグルテンエサなら、野の大型べらが好みそうな、  
さらっとした手触り、強いボソ感、優れたバラケ性を装備。  
実績の面でも申し分のない品揃えで、  
あなたの春のお楽しみを、力強くサポートします。



**ボソ感アリ。バラケ性アリ。実績アリ。**  
野の大型なら、マルキューのグルテンで決まり。

- 新べらグルテン 400g**  
ボソで、極めてマッシュの抜けがよく、集魚性の高いグルテンエサ。両ゲルの宙釣りに効果抜群。ブレンド性に優れているので、野川、ダム湖での釣りに威力を発揮。もちろん、管理釣り場での釣りにも効果的。
- 新べらグルテン底 400g**  
「新べらグルテン」のボソタッチをいかしながら、重さを加えた底釣りタイプ。マッシュの抜けがよく、適度な重さで、底にへら鮎を落ち着かせます。大型狙いに最適。野の底釣りでも期待できます。
- グルテン四季 250g**  
待てて誘えるボソタッチのグルテンエサに、膨らむ早さをプラス。宙でも底でも、その膨らみの早さから、早い食いアタリが期待できます。膨らんだ繊維がしっかりとハリに残るので、流れのある川でも有効です。

定価 1000円  
本体九五二円

丸マルキュー株式会社  
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ | 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909  
| 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909  
ホームページアドレス | <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら  
Eメール・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>

丸マルキューへら鮎メールマガジン、近日スタート!!

マルキューでは、耳寄り情報満載のメールマガジンを無料配信します。  
配信登録の方法など、詳細についてはマルキューホームページをご覧ください。→

<http://www.marukyu.com/>

